

# 2004年度 決算説明会

2005年5月11日

# 目次

- I . 2004年度 決算実績
- II . 2005年度 業績見通し

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

# I . 2004年度 決算実績

## 1. 決算概況

<連結決算>

(単位:億円)

	03年度	04年度	増減
売上高	11,208	12,369	1,160
営業利益	930	1,828	898
経常利益	687	1,732	1,045
特別損益	△ 288	△ 36	251
法人税等・少数損益	△ 91	△ 587	△ 496
当期純利益	307	1,108	800
利益剰余金残高	119	1,158	1,038
総資産残高	20,017	19,231	△ 785

< 单独決算 >

(単位:億円)

	03年度	04年度	増減
売上高	7,117	7,728	611
営業利益	736	1,264	528
経常利益	577	1,107	529
特別損益	△ 324	15	340
法人税等	△ 16	△ 406	△ 390
当期純利益	237	716	479
利益剰余金残高	668	1,313	644
総資産残高	15,178	14,578	△ 599

## 2. 売上高・営業利益

<連結>

	03年度		04年度		(単位:億円) 増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼	9,620	934	10,857	1,837	1,237	903
エンジニアリング	688	△ 37	571	△ 48	△ 116	△ 11
エレクトロニクス	466	4	490	12	24	7
その他	432	42	448	35	16	△ 7
(消去)		(△14)		(△7)		(6)
合計	11,208	930	12,369	1,828	1,160	898

増減の要因 ←

	要因
鉄鋼	原材料価格の上昇や円高影響あるが、販売価格・構成の改善、コスト削減等により増収、増益。
エンジニアリング	公共投資の減少等により減収、損益悪化。
エレクトロニクス	半導体需要好調により増益。

<単独> (単位:億円)

	03年度	04年度	増減
	売上高	売上高	売上高
鉄鋼	6,456	7,169	713
エンジニアリング*	661	558	△ 102
エレクトロニクス	—	—	—
合計	7,117	7,728	611

	03年度	04年度	増減
為替レート	円/ドル 113	108	5円円高
販売数量	万トン 971	933	△ 38
鉄鋼部門平均 販売単価	千円/T 66.5	76.8	10.3
	価格・構成差	11.7	
	為替差	△ 1.4	
	計	10.3	

### 3. 連結経常利益増減

03年度→04年度 1,045億円好転 (687億円→1,732億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	140	為替差	△ 60
販売構成・価格他	1,895	原材料価格他	△ 900
		台風影響	△ 30
合計	2,035		△ 990

04/上→04/下 300億円好転 (716億円→1,016億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	15	原材料価格他	△ 200
販売構成・価格他	515	台風影響	△ 30
合計	530		△ 230

#### 4. 特別損益

<連結>

(単位:億円)

	03年度	04年度
固定資産売却益	—	11
投資有価証券売却益	63	293
収用に係る特別利益	79	—
その他	—	8
特別利益計	143	314
退職給付引当金繰入額	△ 69	△ 65
固定資産売却却損	—	△ 168
事業再編損	△ 8	△ 68
災害損失	△ 19	△ 34
固定資産除却損失等	△ 253	—
持分法による投資損失	△ 80	—
その他	—	△ 13
特別損失計	△ 431	△ 350
特別損益計	△ 288	△ 36

## 5. キャッシュフロー

<連結>

	03年度	04年度	増減
営業活動によるキャッシュフロー	2,208	2,773	565
投資活動によるキャッシュフロー	△ 274	△ 120	154
財務活動によるキャッシュフロー	△ 2,408	△ 2,973	△ 564
現金及び現金同等物の期末残高	740	424	△ 316

## 6. 連結剰余金

(単位:億円)

	03年度	04年度	増減
資本剰余金期首残高	607	618	11
株式交換による新株の発行	10	—	△ 10
自己株式処分差益	0	0	0
資本剰余金期末残高	618	618	0

利益剰余金期首残高	△ 114	119	234
当期純利益	307	1,108	800
新規連結等による増加	—	1	1
配当金	△ 71	△ 72	0
連結除外等による減少	△ 1	—	1
利益剰余金期末残高	119	1,158	1,038

補足数値

(1) 金融収支

<連結> (単位:億円)

	03年度	04年度
受取利息・受取配当	52	42
支払利息	△ 228	△ 175
金融収支	△ 175	△ 133

<単独> (単位:億円)

	03年度	04年度
受取利息・受取配当	55	69
支払利息	△ 143	△ 112
金融収支	△ 88	△ 42

(2) 設備投資・減価償却費(有形固定資産)

<連結> (検収ベース、億円)

		03年度	04年度
設備投資 A	鉄鋼事業	636	556
	非鉄鋼事業	35	47
	合計	671	603
減価償却費 B		783	792
B-A		111	189

<単独> (検収ベース、億円)

		03年度	04年度
設備投資 A		488	366
減価償却費 B		487	480
B-A		△ 1	114

(3) 鉄鋼事業カンパニー別売上

<連結>

カンパニー	03年度	04年度
鋼板・建材	5,526	5,714
鋼管	2,295	2,813
交通産機品	674	779

(単位:億円)

増減
187
517
104

<単独>

カンパニー	03年度		04年度	
	数量	金額	数量	金額
鋼板・建材	803	4,291	744	4,563
鋼管	151	1,607	170	1,955
交通産機品	18	557	20	650

(単位:万トン、億円)

増減	
数量	金額
△ 59	272
19	347
2	93

#### (4) 鉄鋼事業国内・輸出別売上

< 単独 >

(単位:万トン、億円)

	04年度	
	数量	金額
国内	561	4,340
輸出	372	2,829
合計	933	7,169

< 単独 >

輸出向先別比率

(単位:%、金額ベース)

	04年度
アジア	65
北米	9
中近東	10
欧州	12
他	4

## Ⅱ. 2005年度 業績見通し

1-(1) 05年度業績見通しの前提

		04年度 実績	05年度 見通し
為替レート	円／ <sup>ドル</sup>	108	100
全国粗鋼	百万 <sup>トン</sup>	113	114程度
当社グループ粗鋼(*)	万 <sup>トン</sup>	1,287	1,320程度

(\*)小倉、直江津、住金鋼鉄和歌山を含む

為替バランス (単位:億ドル/年)

(ドル受取超過) 単独	12
グループ	1
連結	13

## 1-(2) 業績見通し

<連結>

(単位:億円)

	04年度 実績	05年度見通し		増減
		05上期見通し		
売上高	12,369	6,900程度	14,400程度	2,030程度
営業利益	1,828	950程度	2,100程度	270程度
経常利益	1,732	800程度	1,900程度	170程度
特別損益	△ 36	△10程度	△90程度	△50程度
法人税等・少数損益	△ 587	△340程度	△610程度	△20程度
当期純利益	1,108	450程度	1,200程度	90程度

<単独>

(単位:億円)

	04年度 実績	05年度見通し		増減
		05上期見通し		
売上高	7,728	4,200程度	8,900程度	1,170程度
営業利益	1,264	700程度	1,500程度	240程度
経常利益	1,107	550程度	1,300程度	190程度
特別損益	15	△5程度	△70程度	△90程度
法人税等	△ 406	△245程度	△530程度	△120程度
当期純利益	716	300程度	700程度	△20程度

1-(3) 売上高・営業利益

<連結>

(単位:億円)

	04年度 実績		05年度見通し				対前期	
	売上高	営業利益	05/上見通し		売上高	営業利益	売上高	営業利益
			売上高	営業利益				
鉄鋼	10,857	1,837	6,200	950	12,800	2,050	1,940程度	210程度
エンジニアリング	571	△ 48	200	△ 20	600	△ 15	30程度	30程度
エレクトロニクス	490	12	300	10	600	40	110程度	30程度
その他	448	27	200	10	400	25	△50程度	横這い
合計	12,369	1,828	6,900	950	14,400	2,100	2,030程度	270程度

1-(4) 連結経常利益増減

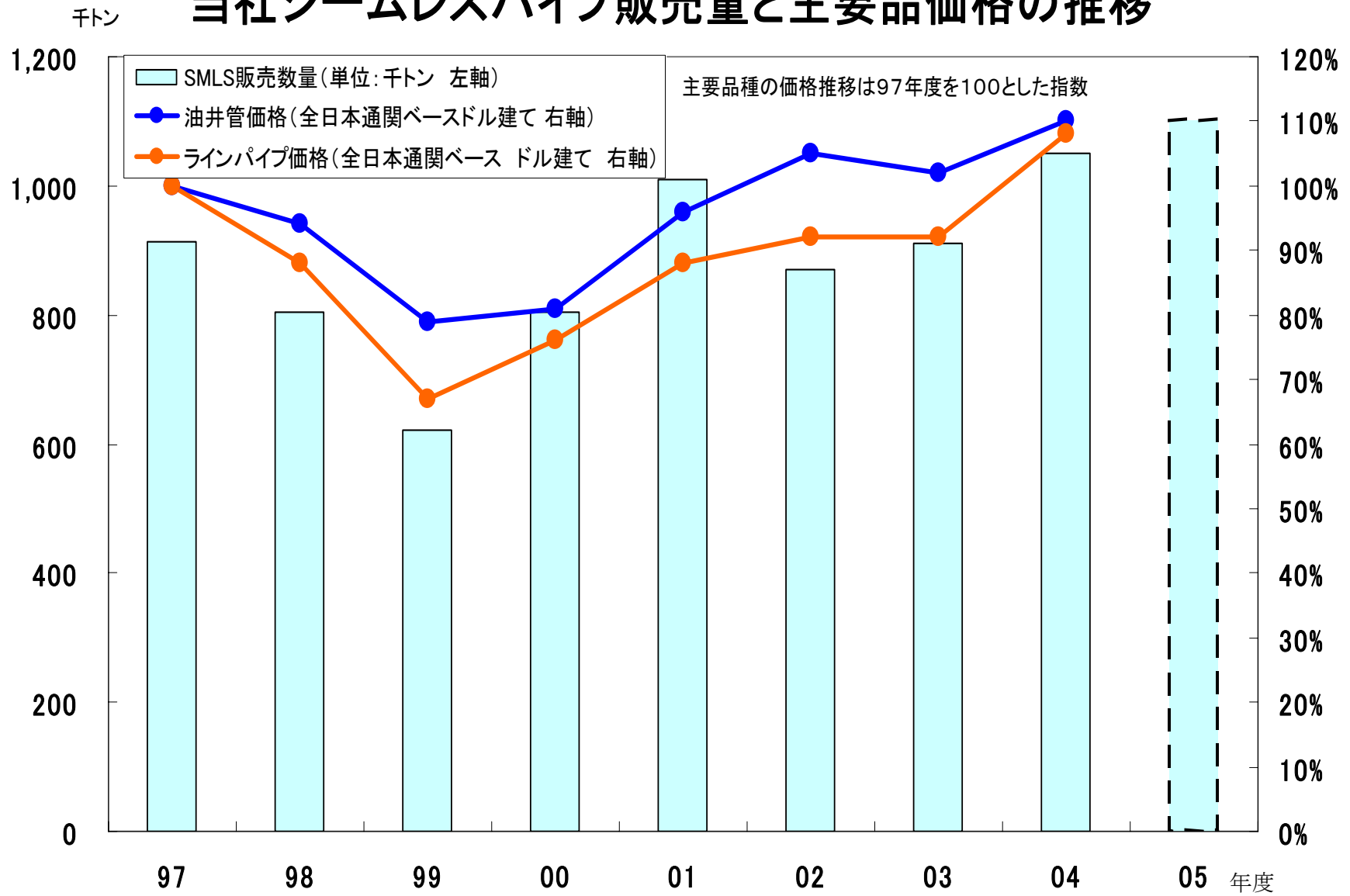
04年度→05年度見通し 170億円程度好転 (1,732億円→1,900億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	130	為替差	△ 110
販売構成・価格他	1,500	原材料価格他	△ 1,350
合 計	1,630	合 計	△ 1,460

04／下→05／上見通し 200億円程度悪化 (1,016億円→800億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	50	為替差	△ 55
販売構成・価格他	395	原材料価格他	△ 590
合 計	445	合 計	△ 645

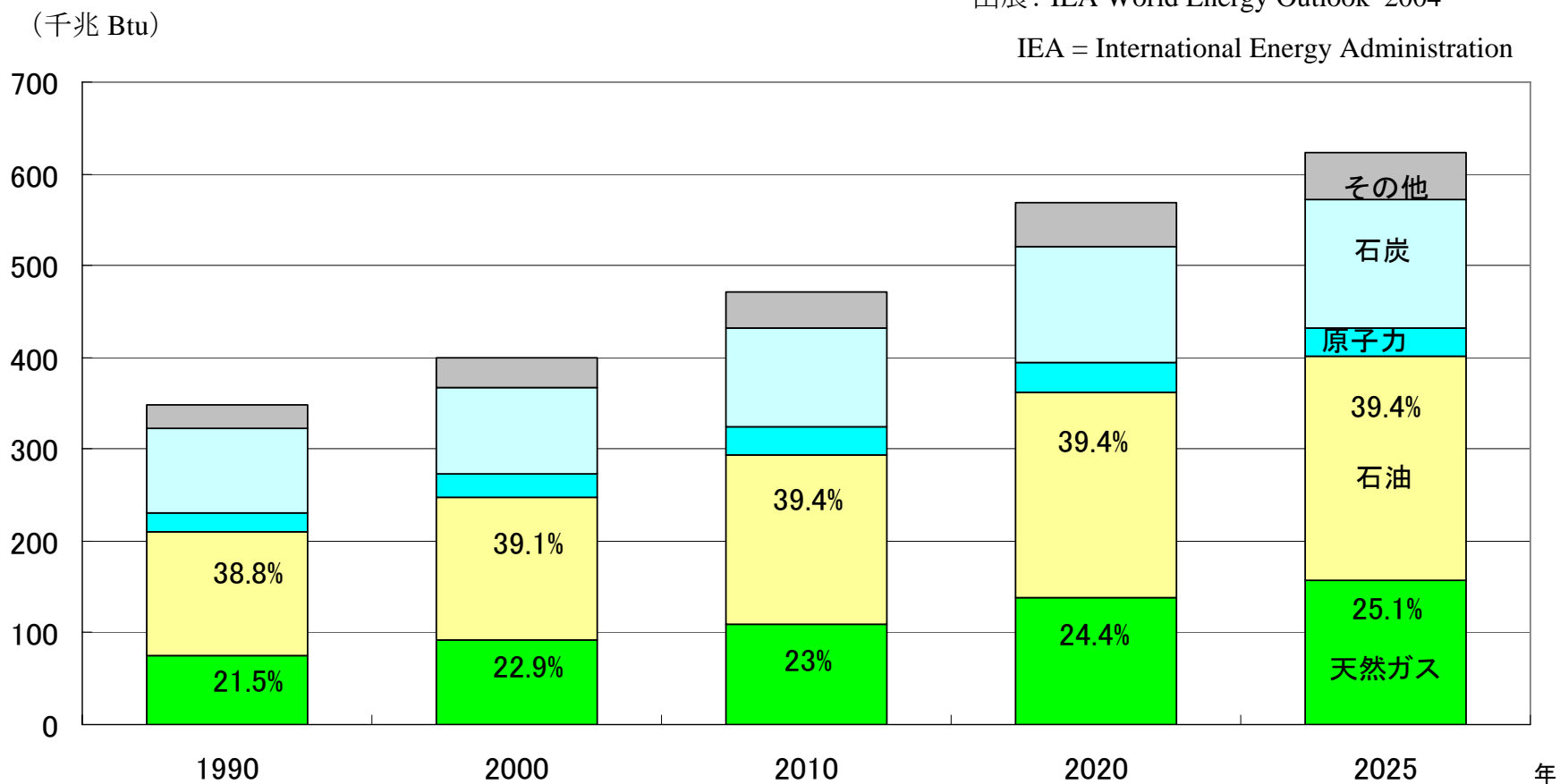
# 当社シームレスパイプ販売量と主要品価格の推移



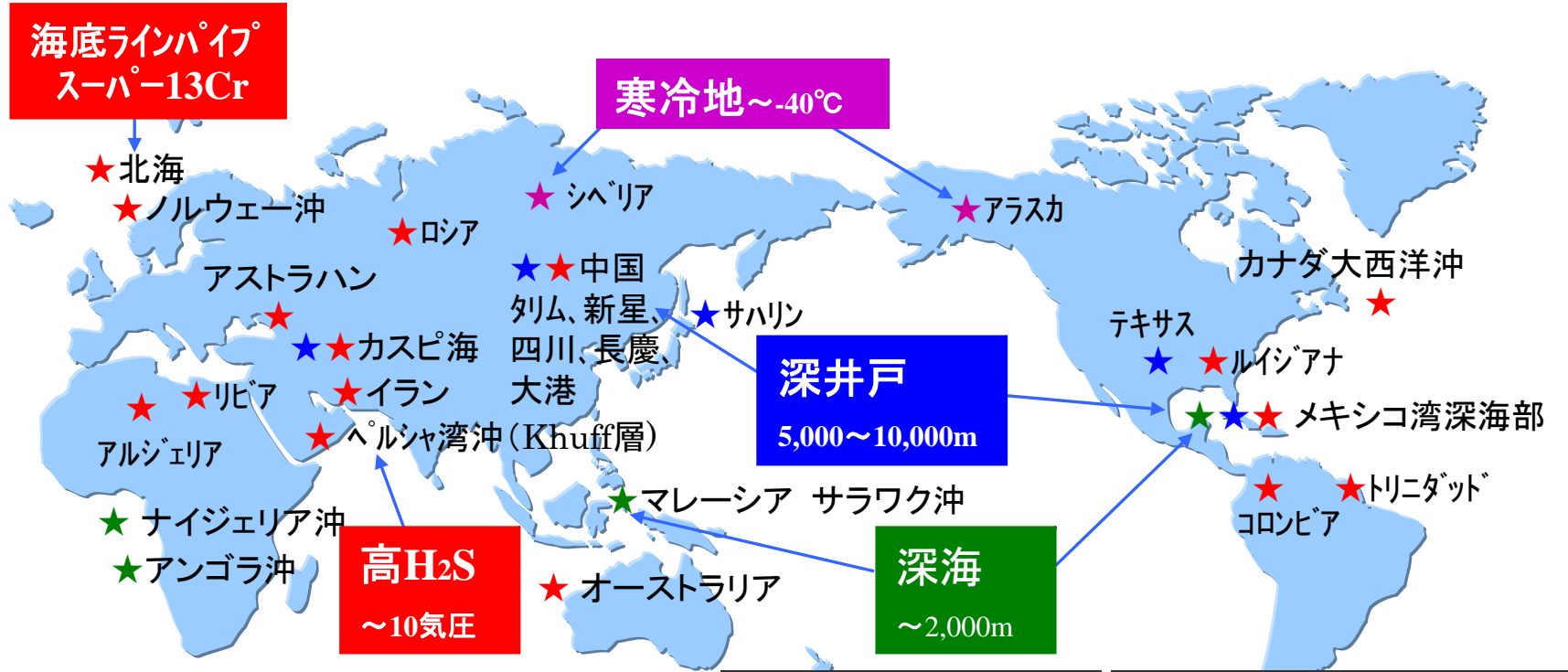
# 世界のエネルギー需要見通し

出展: IEA World Energy Outlook 2004

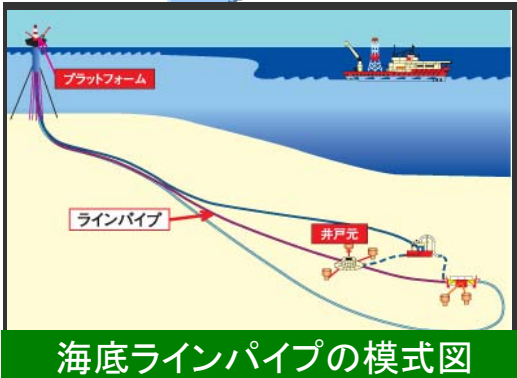
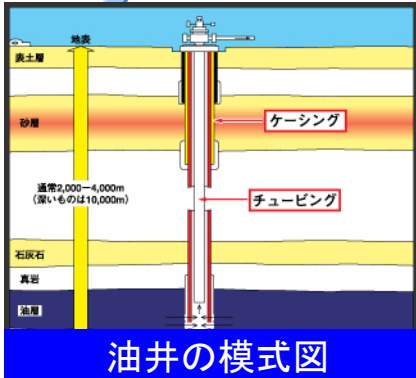
IEA = International Energy Administration



# 世界の大規模な石油・天然ガス開発プロジェクト

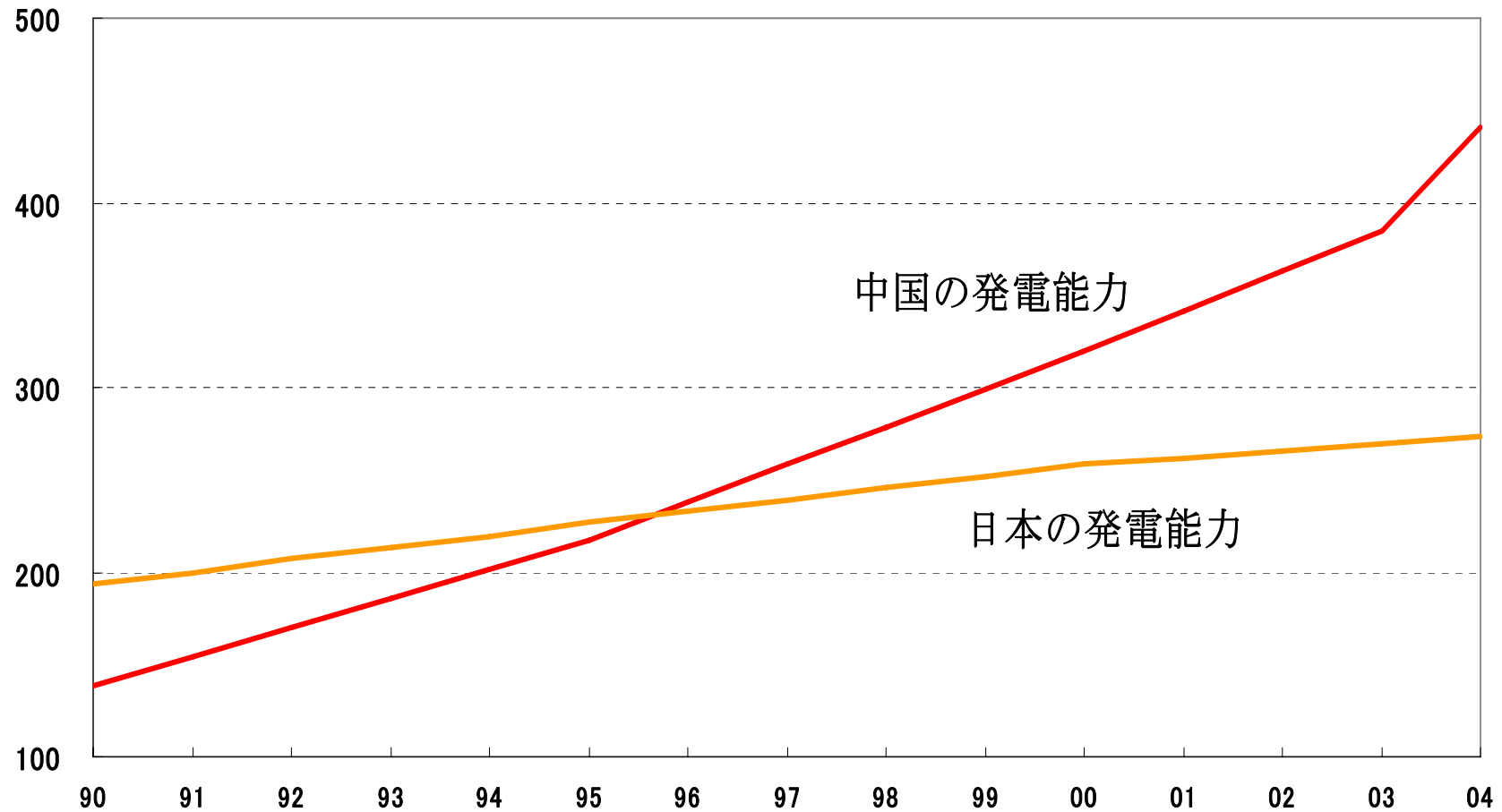


- ★ 深海
- ★ 深井戸
- ★ 高腐食環境

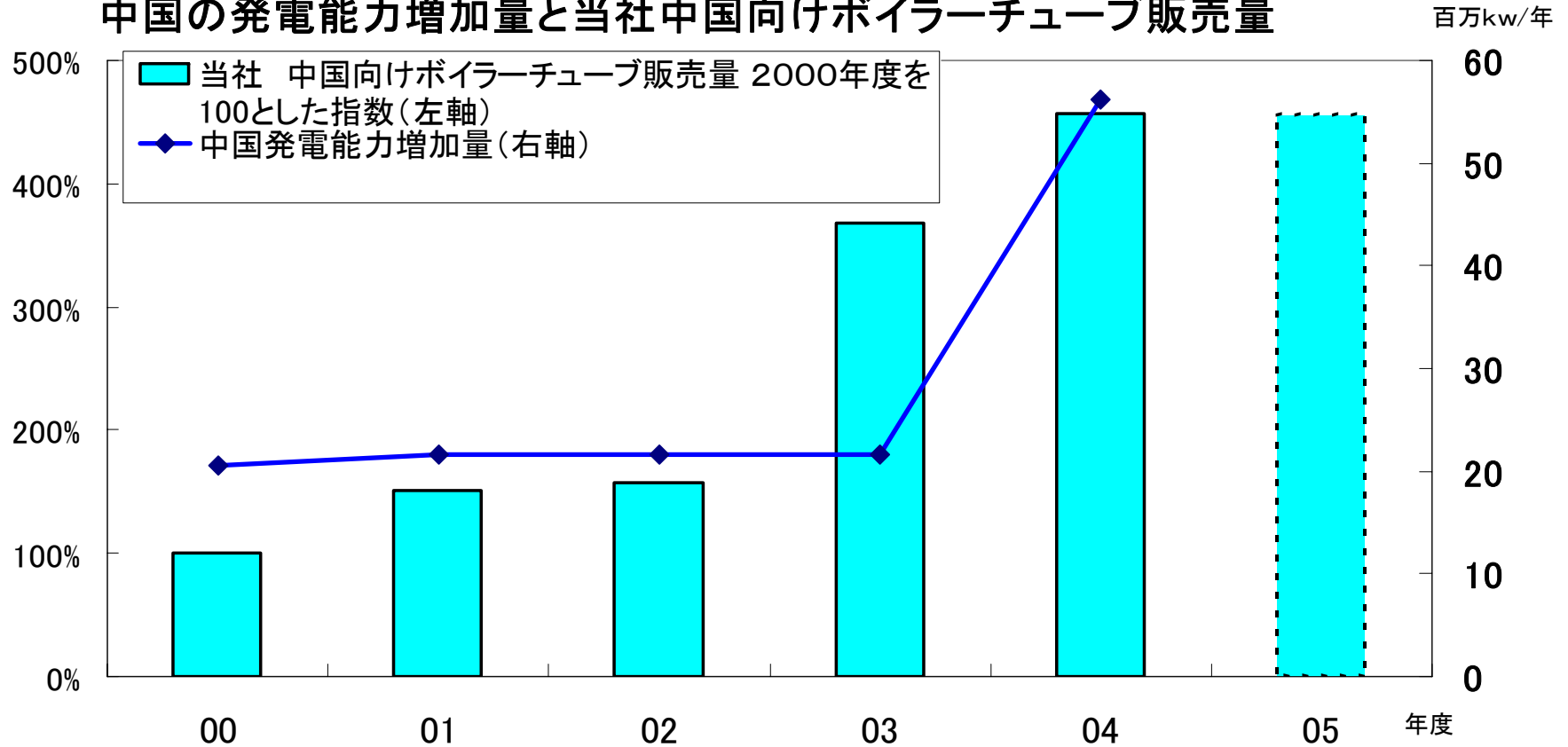


# 中国の発電能力推移

単位: 百万kw



## 中国の発電能力増加量と当社中国向けボイラーチューブ販売量



高級ボイラーチューブの旺盛な需要に対応するため

光輝焼鈍炉1基(和歌山製鉄所海南地区)

を05年1月に増強

## 主要な設備投資

	鹿島 電力卸供給用発電設備(IPP)	鹿島 第3高炉改修工事
設備能力	50.7万kw	新第1高炉と同様な仕様
工期	~07年	~07年
総工費	570億円	290億円

	鹿島 溶融亜鉛めっき設備・連続酸洗設備
設備能力	30万トン／年・150万トン／年
工期	~06年秋
総工費	250億円

## 2. 『中期経営計画(2002年度～2005年度)』 の進捗状況

## 鉄鋼事業／構造改革と競争力強化

### 薄板生産体制の変更

薄板量製品の鹿島集約

- ・鹿島 新第1高炉の稼動開始 (04年9月末)
- ・和歌山 熱延ミルの休止、鹿島への集中 (05年3月末)

CSCへのスラブ供給180万トン/年 (05年4月より)

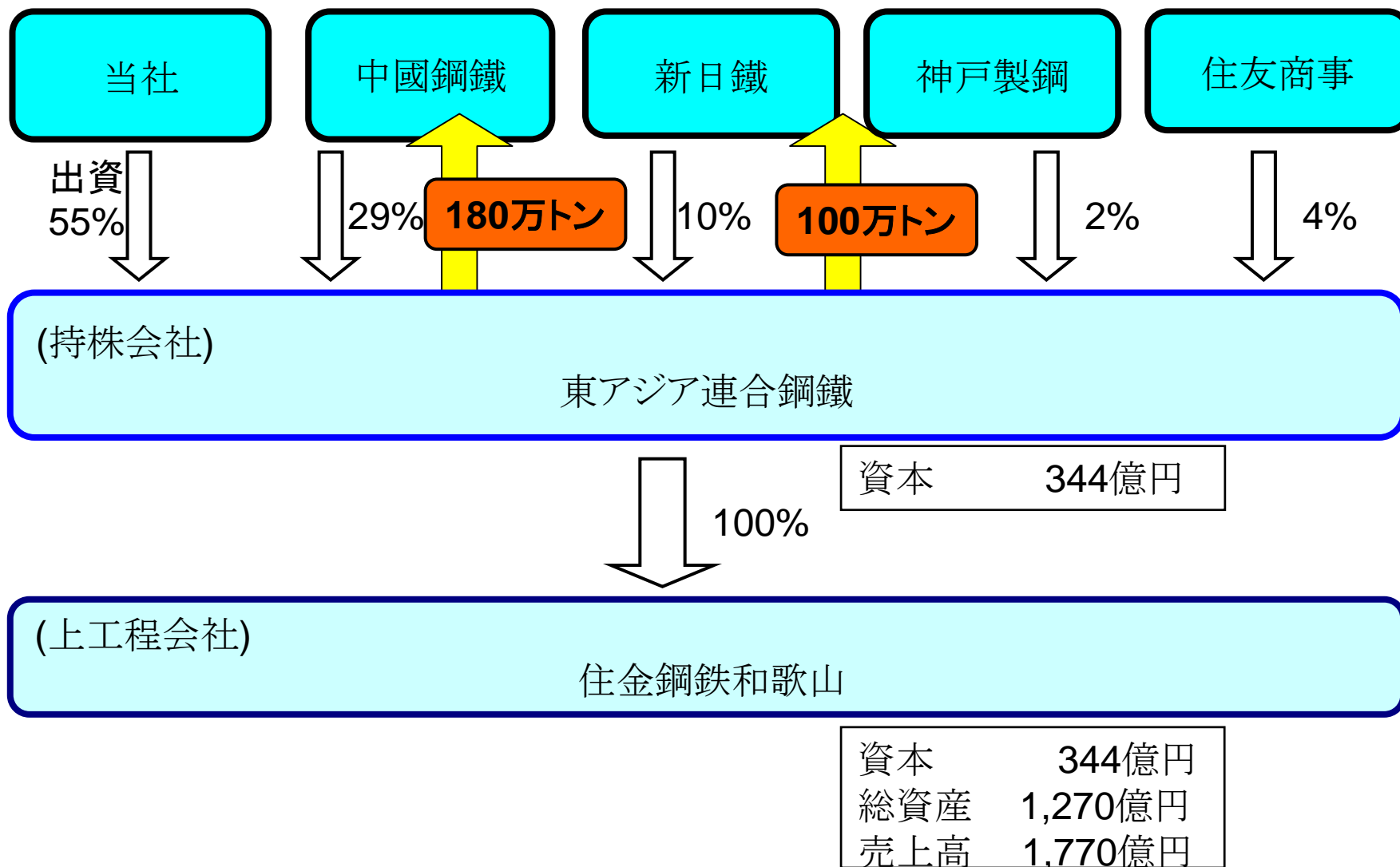
ステンレス事業の新日鐵との統合 (03年10月)

和歌山 上工程の分社 (03年11月)

新日鐵・神戸製鋼との3社連携の深化 (05年3月)

和歌山製鉄所上工程設備の共同利用他

# 和歌山製鉄所 上工程の共同利用



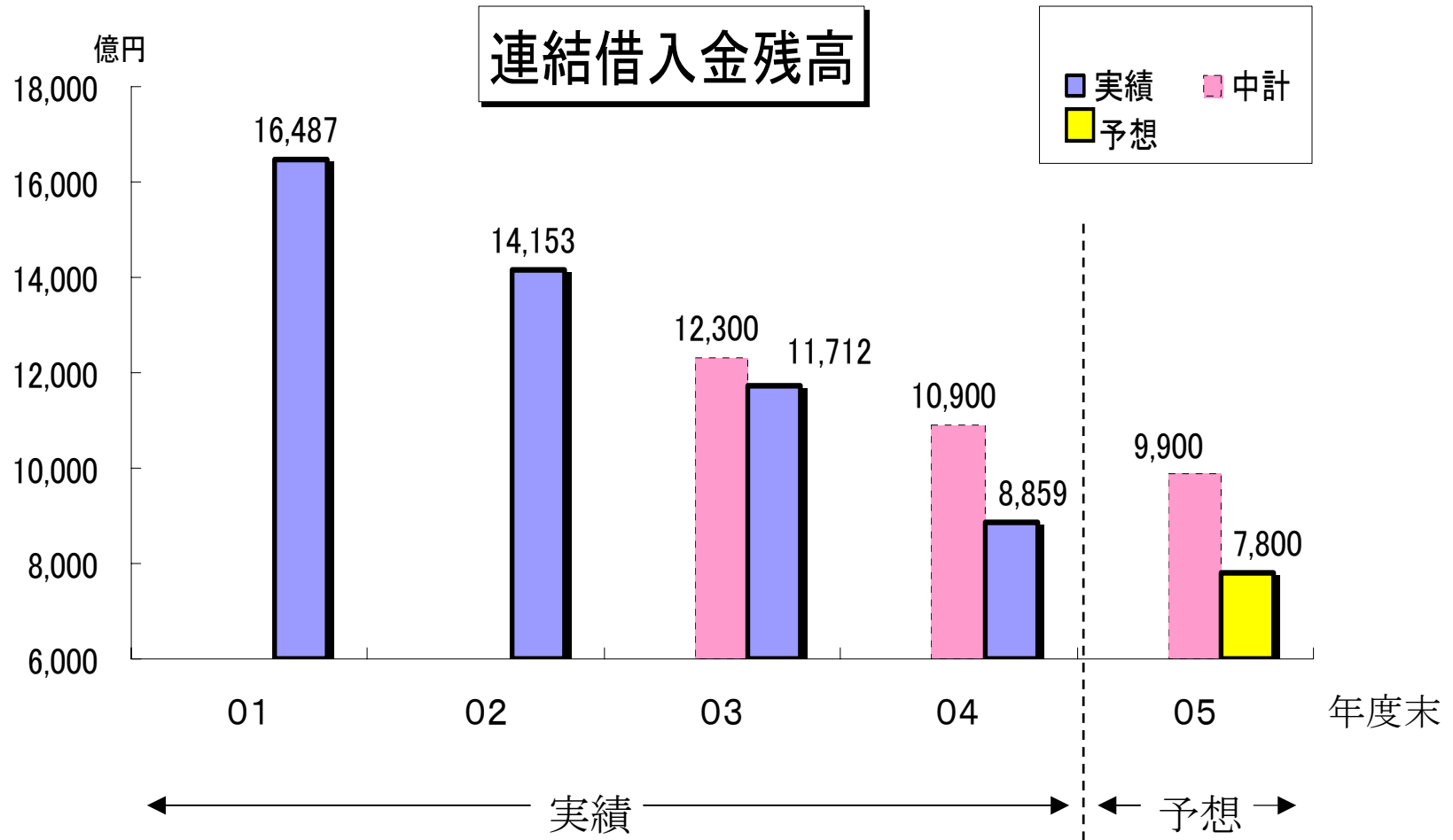
# 新日鐵／神戸製鋼との連携の拡充・深化

3社間の更なる連携拡充・深化のため下記施策に関して相互協力を検討

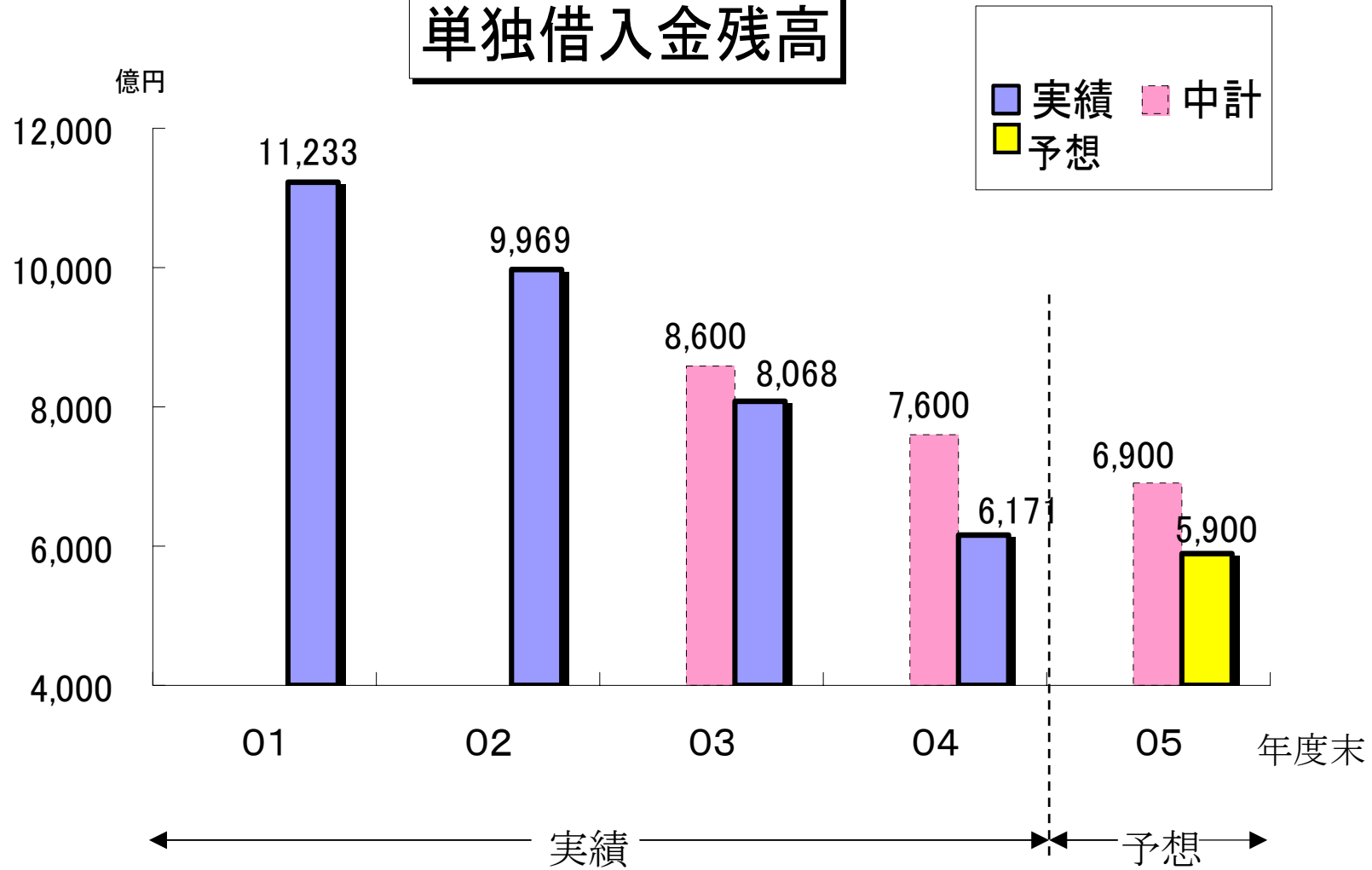
- (1)研究開発 上工程（製鉄・製鋼等）、基盤研究
- (2)知的財産
- (3)調達  
原料・資機材の安定調達等
- (4)電気・制御・システム
- (5)環境・リサイクル
- (6)和歌山の冷間圧延工程設備等の共同活用  
酸洗・冷延工程設備等の新日鐵・神戸製鋼からの委託圧延 等

連携施策をより一層、円滑かつ着実に検討・実行していくために、相互の株式追加取得の検討

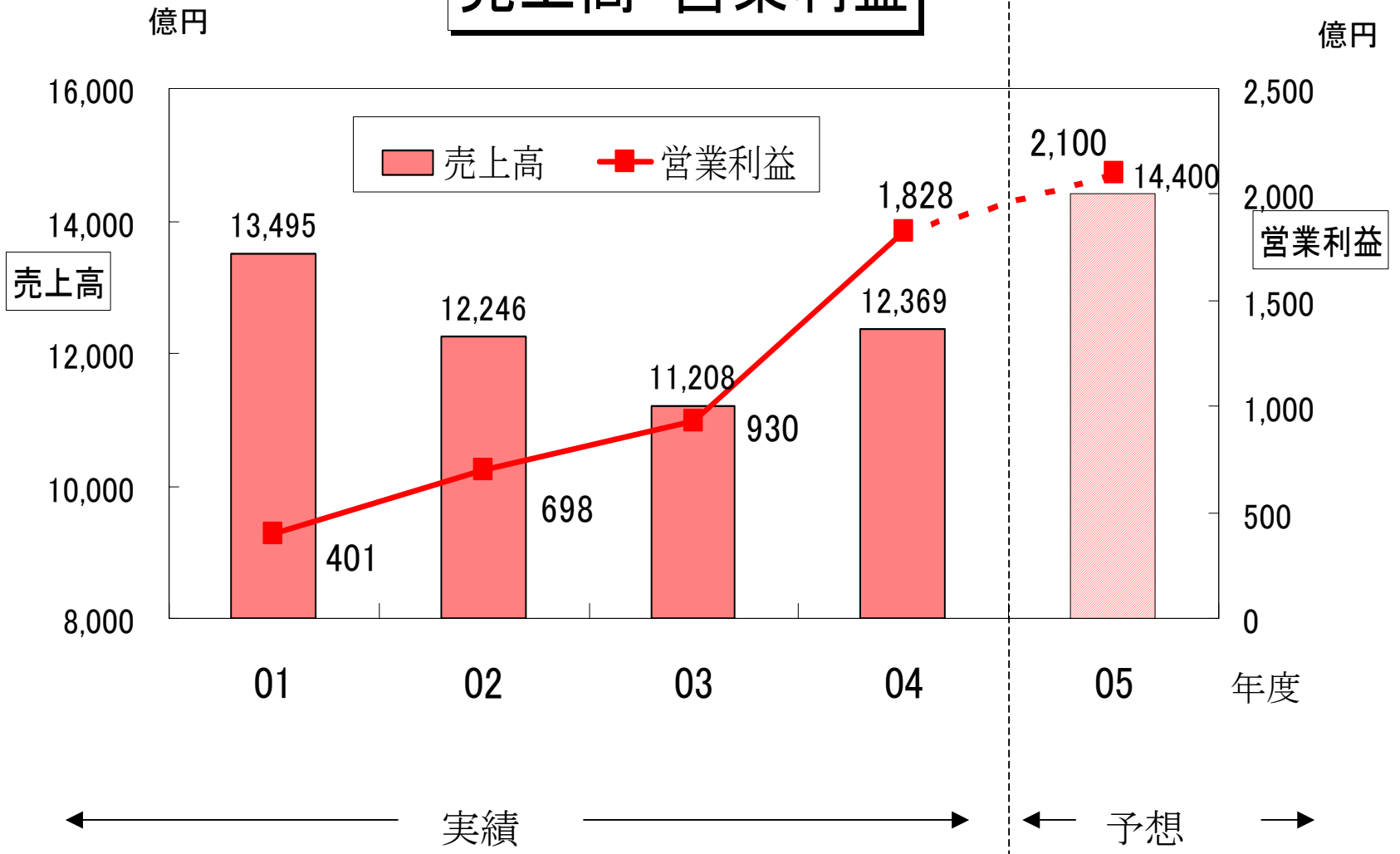
# 財務体質の改善



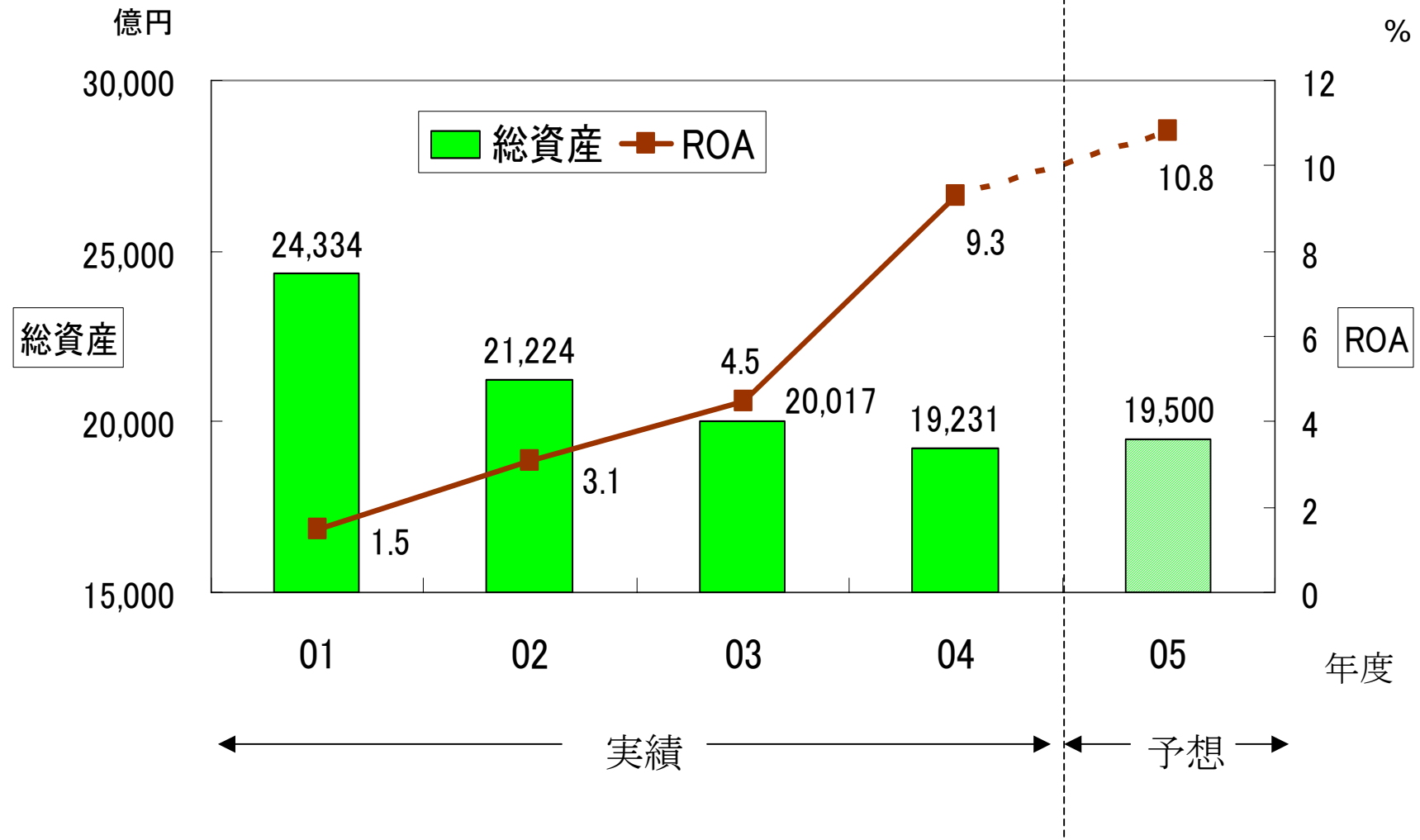
# 単独借入金残高



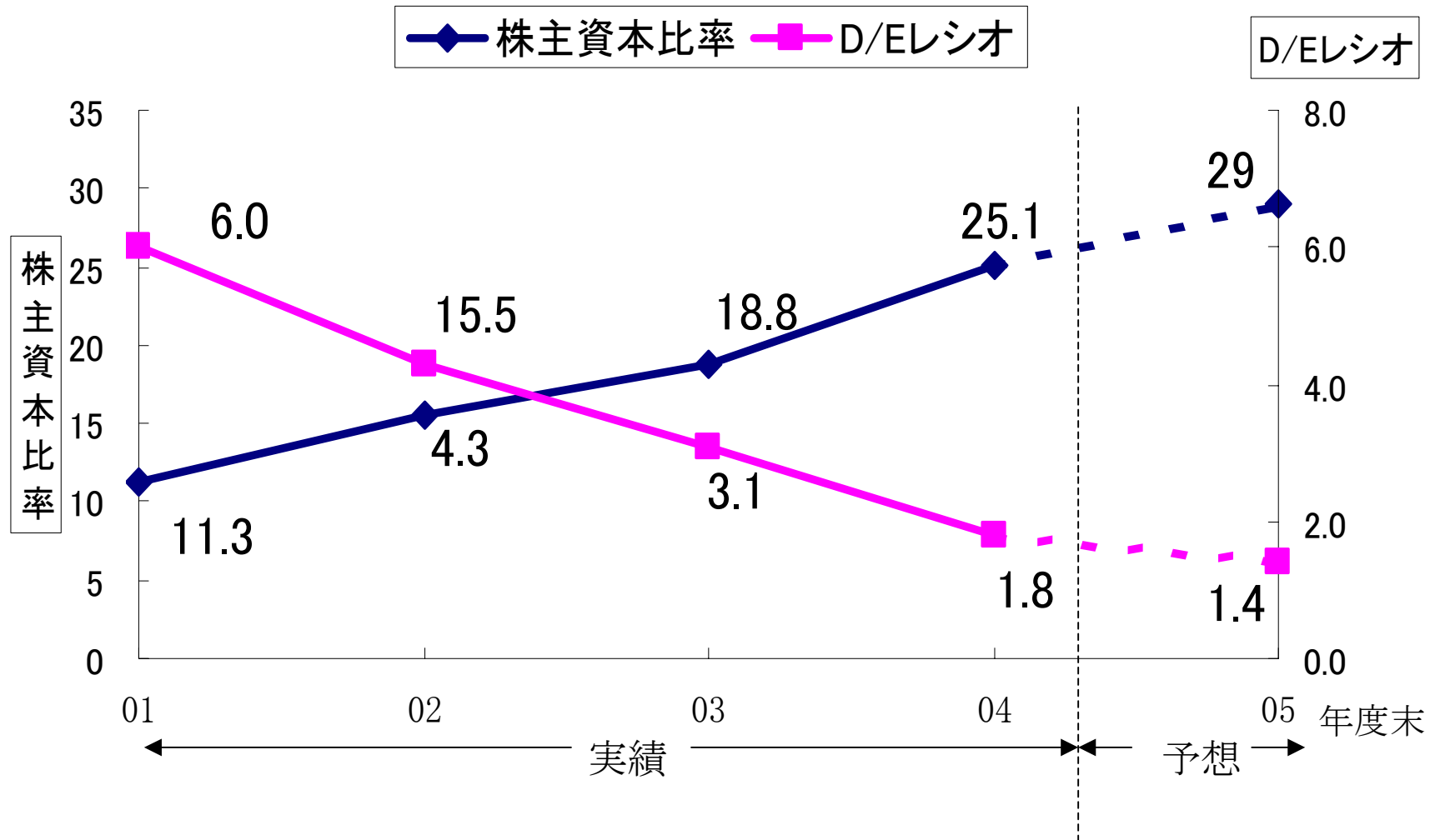
# 売上高・営業利益



# 総資産・ROA



# 株主資本比率・D/Eレシオ（連結）



## 顧客評価No. 1の実現に向けて

### 最近の顧客からの主な表彰・評価の実績

受賞年月	顧客	賞名	
04年8月	ダイハツ	VE・VA提案優秀賞／品質改善賞	
05年3月	トヨタ	技術開発賞	新型クラッシュボックス
05年3月	トヨタ	品質優秀賞	4年連続受賞
05年4月	マツダ	VA・VE提案優秀賞	